

もうかるとは？

～収益・費用～

講師
 粕谷和生

収益と費用の意味を、しっかり理解しましょう。次に演習によって収益と費用の意味を体験的に学びます。また、損益法による当期純利益の計算のしかたをマスターして、その考え方を財産法と比較しましょう。さらに演習の結果をうけて損益計算書を作成してみましょう。

調べておこう・覚えておこう

資本／財産法／当期純利益

収益・費用とは

収益とは「経営活動によって資本の増加の原因となることから」をいいます。また、費用とは「経営活動によって資本の減少の原因となることから」をいいます。最初は、この意味を理解するのは少し難しいです。

今回は、2つの例題を使って体験的に収益と費用の意味を学びましょう。

【例題1】 資産・負債・資本の金額

現金	200,000	買掛金	150,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	400,000	資本金	600,000
備品	400,000		

ある日の資産・負債・資本の金額が上記の表のとおりであったとします。そこに「仕入価額¥200,000の商品を¥300,000で売り渡し、代金は現金で受け取った。」という取引があった場合、資産・負債・資本の金額はどうか、下記の表に記入してみましょう。

現金	()	買掛金	150,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	()	資本金	()
備品	400,000		

現金は¥500,000 商品は¥200,000となり、資産合計は¥1,200,000です。ここから負債合計の¥500,000を差し引くと資本金は¥700,000となります。資本金が¥100,000増加しています。その原因は、商品売買益という収益が発生しているからです。

【例題2】 上記に続いて「広告宣伝用のチラシを作り、代金¥10,000を現金で支払った。」という取引があった場合、表はどのようになるか、次の表に記入してみましょう。

現金	()	買掛金	150,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	200,000	資本金	()
備品	400,000		

現金は¥490,000となり、資産合計は¥1,190,000です。ここから負債合計¥500,000を差し引くと資本金は¥690,000となります。資本金が¥10,000減少しています。その原因は、広告料という費用が発生しているからです。

ポイント 収益は経営活動によって資本の増加の原因となることから
費用は経営活動によって資本の減少の原因となることから

次に、おもな収益とおもな費用を紹介します。

収 益	商品売買益・受取手数料・受取利息など
費 用	給料・広告料・交通費・通信費・支払家賃・水道光熱費・雑費・支払利息など

もうけを計算する

当期純利益を「財産法」で計算する方法については、すでに学びました（第2回）。財産法は期首と期末の資本を比べて、資本の増加分を当期純利益とする計算方法でした。

期末資本－期首資本＝当期純利益（マイナスの場合は当期純損失）

当期純利益は、財産法のほかに「損益法」によっても計算できます。損益法の計算式は次のとおりです。

収益－費用＝当期純利益（マイナスの場合は当期純損失）

損益法の計算式は、資本の増加原因である収益から資本の減少原因である費用を差し引きます。つまり、資本の増加額から資本の減少額を差し引き、資本の純増加額を求めて、それを当期純利益とする計算方法です。番組では、資本が入った水槽に収益（資本の増加原因）が流れ込む蛇口、費用（資本の減少原因）が流れ出す排水口の模型を使って説明します。

損益法は、資本の増加原因である収益と資本の減少原因である費用に着目するので、なぜ、もうかったのか（なぜ、当期純利益がこの金額なのか）がわかります。損益法で計算するともうけの原因がわかるのです。

Key Word : 損益法、収益－費用＝当期純利益（マイナスの場合は当期純損失）

損益計算書とは

収益と費用の意味をしっかりと理解するために、第2回と同じ例題で演習します。ただし、今回の演習では、資本の増加に注目して「収益の発生」を確認しましょう。また、資本の減少に注目して「費用の発生」も確認しましょう。

【演習】

1月1日（スタート時点）のさかち商店の資産・負債・資本

現金	200,000	買掛金	50,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	300,000	資本金	600,000
備品	400,000		

1月6日：商品¥100,000を仕入れ、代金は掛けとした。

現金	200,000	買掛金	()
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	()	資本金	600,000
備品	400,000		

※資本金の増加・減少なし ⇒ 収益も費用も発生していない。

1月10日：仕入価額¥200,000の商品を¥300,000で売り渡し、代金は現金で受け取った。

現金	()	買掛金	150,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	()	資本金	()
備品	400,000		

※資本金¥100,000の増加 ⇒ () という収益の発生

1月17日：広告料¥10,000を現金で支払った。

現金	()	買掛金	150,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	200,000	資本金	()
備品	400,000		

※資本金¥10,000の減少 ⇒ () という費用の発生

1月25日：給料¥40,000を現金で支払った

現金	()	買掛金	150,000
売掛金	100,000	借入金	350,000
商品	200,000	資本金	()
備品	400,000		

※資本金¥40,000の減少 ⇒ () という費用の発生

1月31日：仕入価額¥100,000の商品を¥150,000で売り渡し、代金は掛けとした。

現金	450,000	買掛金	150,000
売掛金	()	借入金	350,000
商品	()		
備品	400,000	資本金	()

※資本金¥50,000の増加 ⇒ () という収益の発生

それでは次に、損益計算書を作成します。損益計算書は、一会計期間の経営成績を明らかにするために、右側に収益の各項目を記入し、左側に費用の各項目を記入した書類です。

下記の損益計算書の日付は平成○年1月1日から平成○年1月31日、商店名は「さかっち商店」です。上の演習の1月10日、17日、25日、31日に発生した収益と費用をもとに損益計算書を作成しましょう。

損益計算書

() 商店 平成 年 月 日から平成 年 月 日まで (単位：円)

費用	金額	収益	金額

収益・費用の各項目を記入したら、それぞれの合計額を求めます。右側の収益の合計額は¥150,000で、左側の費用の合計額は¥50,000です。収益から費用を差し引くと当期純利益は¥100,000です。

$$\text{収益} ¥150,000 - \text{費用} ¥50,000 = \text{当期純利益} ¥100,000$$

当期純利益¥100,000を左側の広告料の下に記入します。そうすると左右それぞれの合計金額は¥150,000となり一致します。なお、締め切り線や合計線の引き方は、貸借対照表と同じように引きます。作成した損益計算書の答え合わせは、番組（ホームページ）で確認してください。

Key Word：損益計算書